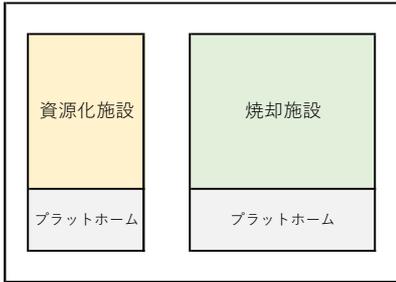
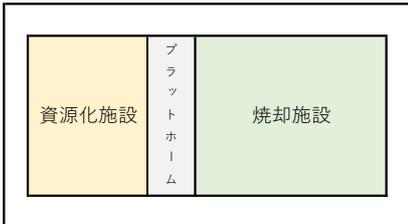


別棟・合棟

敷地に対する施設整備の考え方については、別棟方式と合棟方式（焼却施設と資源化施設を同一建屋内に整備する方法）が考えられます。両方式を整理・比較したものを下表に示します。

両方式の整理・比較

項目		別棟方式	合棟方式
施設配置面	配置イメージ		
	敷地条件	敷地形状に合わせた柔軟な配置計画が可能であるが、総必要面積としては大きくなる。	まとまった矩形の用地確保が必要となるが、総必要面積としては小さくなる。
搬入搬出面	搬入管理	市民もしくは事業所が燃やすごみと燃やさないごみを混載して直接搬入してきた場合、個々の施設で荷下ろしが生じるため、施設内での滞在時間が長くなり、渋滞につながる可能性がある。	市民もしくは事業所が燃やすごみと燃やさないごみを混載して直接搬入してきた場合でも、荷下ろし場所が近いため、施設内での滞在時間が短くなり、比較的渋滞になりにくい。
	動線	個別のプラットホームでの車両は合棟よりは少なくなるが、外周動線は複雑となる。	プラットホームに進入する車両数が多くなることから、安全性の確保に注意が必要。
施設管理面	施設管理	別棟であることから個別管理が可能であり、市民への安全確保は安易である。	焼却施設等設備と環境啓発施設とには、明確な区分(安全対策)が必要となる。
	維持管理	共有部分がないことから通常の機器搬入・搬出が比較的容易である。	機器補修時の搬入・搬出作業時のマシンハッチ配置場所に制約が生じるため、工夫が必要である。
	機械配置	柔軟な機器配置の検討が可能である。	機器配置範囲に工夫が必要となる。
	作業人員	各施設での人員確保が必要である。	搬入管理など両施設共通での人員となるため、若干の削減が可能である。
発注面	整備時期	異なる時期に整備することも可能である。ただし、施設が近接している場合、整備時に既存施設の運転に制約がかかる可能性がある。	一括工事となる。
	発注形態	個別に異なるメーカーへの発注も可能である。	同一メーカーへの発注も可能である。
経済面	事業費	個別での建設となるため、合棟より高額となる。	共有部分が多くなるため、別棟より安価となる。 (建設工事及び電気設備工事)
	資源物の外部委託費の増額分	資源物の外部委託 令和 6 年(2024.10) - 令和 9 年(2027.3) 2.5 年間 対象量 6,245 t (2.5 年間合計) 外部委託費 359,470 千円 現状維持費 163,980 千円 外部委託による増額 195,490 千円(2.5 年間合計)	資源物の外部委託 令和 11 年(2029.4) - 令和 15 年(2033.3) 4 年間 対象量 10,882 t (4 年間合計) 外部委託費 618,180 千円 現状維持費 262,080 千円 外部委託による増額 356,100 千円 (4 年間合計)